

鶏コクシジウム病

県内では、少羽数の鶏を平飼いで飼育する方が増えてきており、それに伴い貧血や元気消失あるいは血便や下痢などの症状を呈し、重篤な場合には死亡する症例もたびたび報告され、鶏コクシジウム病と診断される事例が多くなっています。鶏コクシジウム病は、**アイメリア属原虫（アイメリア・テネラなど7種）**が腸管粘膜に寄生して起こる消化器の病気です。

▶ 感染するとどうなる？

下痢、血便排泄、食欲不振・廃絶、体重減少といった症状を示します。

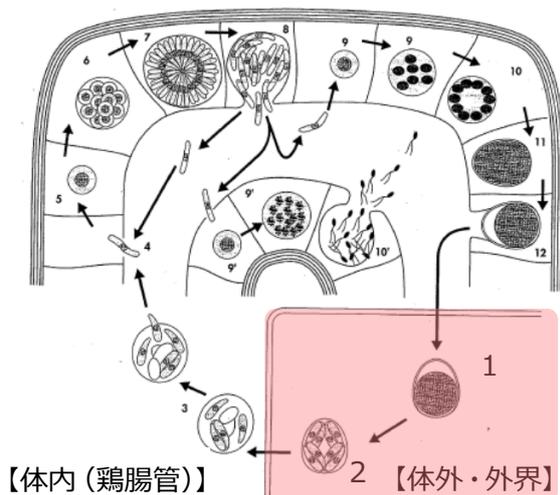
▶ どのように感染する？

鶏舎内の床等が原虫の卵（**オーシスト**）に汚染され、それらを口から摂取することで感染・発症します。このため、ケージで飼育するよりも平飼いで多発する傾向にあります。

▶ どのように予防する？

唯一環境中に存在するのは**オーシスト**とよばれる状態（下図 1,2）で、排泄直後は未成熟で感染能力がありません。しかしながら、感染能力を獲得して新しい宿主に摂取されるまでは厳しい環境にさらされるため、物理的や化学的な刺激（消毒剤など）に抵抗性を示す構造をしています。このため、**日頃使用している消毒剤を常用量で用いても効果は得られません**。そこで、有効な消毒方法と予防対策をご紹介します。

- ◆ オルソ剤が有効とされていますが、完全に殺滅するには長時間作用させる必要があります。
- ◆ 鶏舎の熱湯消毒⇒水洗⇒乾燥が一番有効です。
* 熱湯消毒でオーシストの殺滅に要する時間：60℃30分、80℃1分、100℃瞬時
- ◆ 鶏舎内がオーシストに汚染されないように綺麗に保つことが大切です。
* 鶏糞をこまめにかき出し、敷料の交換を行うことで感染源との接触を減らしましょう。
- ◆ かき出した糞便や敷料は、適切に堆肥化することでオーシストが死滅します。
- ◆ 飼料に予防・治療薬（サルファ剤）を添加する
（注意） 中雛以降の採卵用鶏への使用は禁止されており、薬剤耐性菌出現リスクや鶏卵あるいは鶏肉への薬剤残留等のために法律で使用方法が制限されています。
- ◆ アイメリア・テネラ他2種については、散霧投与または飼料添加で使用する弱毒生ワクチンが販売されています。



- 1 未成熟オーシスト
- 2 成熟オーシスト(スポロゾイト形成)
- 3 スポロゾイト遊出
- 4 スポロゾイト
* 種によって決まっている消化管上皮に寄生
- 5 トロフォゾイト(栄養体)
- 6 未熟メロント(シゾン)
- 7 成熟メロント(シゾン)
- 8 メロゾイト遊出
- 9 マクロガモント♀(マクロガメトサイト)
- 10 マクロガメト♀
- 9' ミクロガモント♂(ミクロガメトサイト)
* 新しい宿主細胞に侵入
- 10' ミクロガメト♂
- 11 ザイゴート
- 12 オーシスト

